令書抄

戸川播磨守

山本柿のうい西瓜の奥さまに茶性よく和かみをて味よきたちをれとも茶を つまきれて深夜とれを返く熟さバ尚よく味ひいてくいう瓜言分ふもなるべく

大同煙　村瀬重信

形ちみき言ふあく氣勢氣おとと船きを焼ひろくぬんくとうくせの故とおとみくく人をさこに器物をさこにそのあを瓜或ハ菓を作るるぬ也功を積ち花もせん望俗よんて太つちちと云

一五八 天保五甲午年六月六日五性水性うけよのつる

七賢白

不老峯　昌敬

富士嶽の雪や夏まて白襲

依水田　昌敬

富士の影　富士の影高ちやみ月の西の影

吹上浜　富士見上や浜松風の下すみ

二尺庵　富たえ浜ひあき月やあ亜

二村山　富多村の山や青綾ろう都

二荒山　富陀羅山と代いつ春も神奈

富の字七つ入て武人に送る　昌敬

如太く　如揮く　如筆て　如振く　如古きたるまに

筆を如ある人有卦に入たるふ筆を筆て戯也ふ

七福茶　富ケさ　富ケさ　富炉　富中

富くに川に茶入富茶の歌の歌と

又ある方へ参るとて

君の為十府の菅丸も七府をもたきのしそこそなる代に行へめ

富貴自至富士のふもとの吟よせん殿の宮のぬさ川き右

栄を祈るとて　　歌書行事

吟詠ぬれよぬれ〳〵栄も姫ゆと寵も富貴福とて

うけやうけの新みちの新十布の宿蓬七福の神　　宗九

御門よ華を輝ひし文なれとも婦のかて対も切れも

福隆寺殿よりそなたる給を賜るとて　　松松

七福の福報ひとつ五拾ひとつふたつ三ぬ〳〵めり

武法師のうけふひをたとりまきて　　写山桜文鼎書

笹蔭のうふ石のけて筋ひ有り

やせうれう有郭よ入る筋〳〵少手儀を給〳〵れ〳〵い　　松松

姫いとらふ実ら〳〵儀の〳〵とけい海き寿の〳〵とけ〳〵や

有郭よへよき事ひれといふ人八十九まちけうう

やもさいとるき山方を筋〳〵参せて

姫〳〵ぞよりふして作き〳〵宮松の〳〵代ふ代ふ代ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元 五月十五日

[illegible]

松平右近将監

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]